

# Business Gallery

第289回

## (株) アジック

—— 大きな声で、自らの声で英語を話そう！

ITの世界はまさに日進月歩。また、近年ではAIやIoTなどの用語も情報として見ない、聞かない日はないくらいである。ただ、この分野は欧米に比べ日本はやや遅れ気味との指摘もあり、それを使いこなすリテラシーをもったビジネスマンの養成は社会的ニーズが高いといえる。今回は、IT機器の販売やインターネットセキュリティー対策をはじめ、IT技術者向けの英語研修も行っている(株)アジックを紹介する。

当社は2015年(平成27年)10月の設立。代表の安達信男社長は大手通信会社やIT企業での勤務経験が長く、会社としては若いものの、この分野の知見は豊富に有する。約2年前にこの会社を立ち上げ、取締役で妻の安達ひろみ氏と二人三脚で歩みを進めている。事業は大きくわけてふたつ。ひとつは、海外IT機器の輸入販売および保守業務。そして、今はまだ実績が少ないが今後より注力していく事業として、IT技術者向けの英語研修がある。

前者では、「 balancer」と呼ばれる大量の情報を負荷分散する装置を輸入販売しており、世界的にも実績が高く、米国NASDAQに株式公開しているRadware Ltd.製のものを扱っている。また、英国SOPHOS社のパートナー(取次店)として、ハッカーやサイバー犯罪対策の機能を有する、インターネットセキュリティー機器の販売も行っている。インターネットの世界ではウイルスや犯罪も刻々と進化しているとのこと。既知のウイルス等に加え、未知のものも監視するシステムで、最新の攻撃や不正通信などを防御する機能を備えた



代表の安達信男社長(右)と取締役の安達ひろみ氏

ものだ。

そして、もうひとつの英語研修。安達社長は自分自身の志として語る。「日本の技術者やビジネスマンの方へ。大きな声で、そして自らの声で、堂々と英語を話していただきたい。そのためのお手伝いをします」。日本で使われているIT機器は米国ベンダー製が多い。こうした機器を扱うには、当然英語が必要となるわけだが、その場合、日常会話レベルや基本的な読み書きの知識だけではビジネスにならないといったことが往々にしてある。専門用語や独特のニュアンスなどを理解し、ビジネスにより実践的な内容としているのが、アジックならではの英語研修である。

海外製品の理解に加え、国内製品を海外展開するには商談やプレゼン等、より高度なコミュニケーション能力が求められる。そうしたニーズを満たすべく、バイリンガルの外国人や翻訳実績豊富な日本人など講師陣も充実。もちろん社長自身も教壇に立ち、自身の志と社業の発展を胸に込め、研修に力を入れていきたいとしている。

### 企業概要

#### (株) アジック

企業コード：116016640

所在地：川口市芝2-5-3

代表：安達 信男氏

設立：2015年(平成27年)10月

年売上高：約552万円(2017年9月期)

URL：<https://www.agiclabo.com/>